

平成25年度四手井綱英記念賞 選考理由

受賞対象論文

川瀬成吾・木村亮太. 2012. 淀川流域におけるヨドゼゼラの分布域の退縮. 地域自然史と保全, 34 (1) : 13-25.

選考理由

コイ科の淡水魚のゼゼラ類は、日本で従来1種のみが知られていたが、琵琶湖淀川水系に生息するゼゼラを精査した結果、2種類が混在していることが明らかとなり、2010年に本論文の著者の一人である川瀬氏らによって、ゼゼラに加え新たにヨドゼゼラが新種記載された。これまで1種とされていたものが、2種に分類された場合、それぞれの種について、改めて生息域や生息数等を確認する必要性が生じる。本論文は、新たな分類を基に、筆者らがヨドゼゼラとゼゼラについて、淀川流域における生息状況を明らかにした報告である。特筆すべきは、現在の分布状況を把握するだけでなく、標本調査によって過去の知見も明らかにしたことである。

著者らによると、ヨドゼゼラはかつて淀川流域に広く分布していたが、近年、宇治川、桂川、淀川において、その生息域や個体数を減らしており、その要因の一つとして、河川や水田周辺の氾濫原環境が失われたことを挙げている。一方、ゼゼラについては、琵琶湖からの流下個体群が淀川流域に生息するものの、その生息数は少ないものと推測している。

2013年2月に公表された環境省の汽水・淡水魚類の第4次レッドリストでは、ヨドゼゼラが絶滅危惧IB類、ゼゼラが絶滅危惧II類に選定された。ヨドゼゼラが新種記載される以前の3次リストにおいてゼゼラ類の記載はないことから、第4次リスト作成時において、本論文がカテゴリー選定の根拠として活用されたことがわかる。さらに今後、淀川流域において、ヨドゼゼラおよびゼゼラの保全を行なう際には、本論文が有効利用されるものと思われる。

以上のことから、本誌第34巻1号に掲載された論文「淀川流域におけるヨドゼゼラの分布域の退縮」を高く評価し、平成25年度の四手井綱英記念賞を授与する。

関西自然保護機構編集委員会
四手井綱英記念賞選考委員会